第29回スクウェア・エニックスマンガ大賞

驚異のT(トリプル)受賞

㊗入選　㊗赤井ヒガサ先生審査員特別賞　㊗ウダノゾミ先生審査員特別賞

interview

黒田倫世(くろだともよ)先生

1987年3月11日生まれ
魚座/B型
福岡県出身

ヤングコミック部門
『白鷺(しらさぎ)の舞手(まいて)』
←は次ページから!!

Q 好きなマンガ

魔法陣グルグル/衛藤ヒロユキ先生
鋼の錬金術師/荒川弘先生

Q 好きなアニメ

『天空の城ラピュタ』
『PSYCHO-PASS』

Q 好きな映画

『ターミネーター2』

Q 好きなゲーム

『FINAL FANTASY Ⅶ』
『ドラゴンクエスト4』
『クロノトリガー』

Q 好きなタレント

渡辺謙　叶姉妹
マツコ・デラックス

Q 受賞作を描いたきっかけは?

大好きな故郷（福岡県京築(ふくおかけんけいちく)地区）の景色や伝統文化、伝説をモデルにした漫画を描くのがずっと夢だったので。

Q 賞金の使い道は?

家族と焼肉食べに行きます!

Q 次回作の予定は?

さくせん『ガンガンいこうぜ』の心意気で!

Q 受賞が決まった時の心境は?

360度全方位に向かって頭を下げる勢いで感謝の気持ちいっぱいでした…。「将来は漫画家になる」と卒業文集に書いた小6の自分にやっと良い報告が出来ます。

… 読者にひと言

辛口の感想よろしくお願いします!
次回作もお楽しみに!!

担当よりひと言!

ひとつひとつのセリフや背景のすみずみにまで、黒田先生の強い地元愛を感じました。次の題材にもたっぷり愛情を注いで、読者の「生きる糧」になるようなマンガを生み出していってください!

第30回スクウェア・エニックスマンガ大賞募集詳細は300Pをチェック!!

白鷺の舞手

特別審査員絶賛の珠玉作!!

むかしむかし
辰守川の水神様は暴れ者でな
よう大水を起こしては
田畑を押し流し
里の人々は困り果てちょった

そこで　ある時
市太郎っちう里の子が
川へ身を捧げて
水神様を鎮めた

すると凪いだ川面から
一羽の白鷺が現れ
天神様の御座す方角へ
飛び去ったんじゃと

希代の大型新人、鮮烈デビュー!!
黒田倫世
KURODA TOMOYO
白鷺の舞手
「一本の読み切り作品として傑作だと思います」赤井ヒガサ先生
「多くの人に読んでほしい作品」ウダノゾミ先生

白鷺の舞手
キーンコーンカーンコーン
パーンッ
もお〜〜〜お願いッッ
一生オ〜〜のお願いだからさぁ!!
槙村 伊鶴
高校2年生
だから俺がやってるのはバレエなんだから畑違いだっつってんだろ
いい加減 諦めて他を当たれ
円藤 千早
高校2年生
★この作品はフィクションです。実在の人物、団体、事件等とはいっさい関係ありません。
やだ〜!どうしても諦められない——!!
わぁっ
なんだよ お前らまだ そのやり取りやってんのか

千ぃちゃんもさくく
もったいぶらずに
引き受けてやりなよ
テメエら軽く
言ってくれんな
週3日の平日2時間半稽古に
土曜の半日稽古をこれから
ほぼ半年もの期間だぞ？
そんな時間を捻出する
余裕は俺にはねえ
もったいないねぇ
貴重な大役なのに
去年の『白鷺』の舞手
直々の推薦なんだから
しゅん…
引き受けねえと
バチが当たるぜ？
アン
『白鷺』
俺達の住む
辰守川流域地区には
『白鷺伝説』と呼ばれる
古い言い伝えがある

かつて頻繁に
氾濫を起こしていた
辰守川の堤防築造に際し
市太郎という少年が
人柱に立ったところ
荒れ狂う水流は
ぴたりと鎮まった
すると凪いだ川面から
市太郎の魂が
一羽の白鷺となって
飛び去っていったという
以来 人々は
市太郎の犠牲を悼み
田畑の豊かな実りに感謝して
毎年 秋の収穫期に
舞を奉納するようになった

それが
市太郎が入水前に
祭壇に捧げたという舞を
起源とする『白鷺の舞』であり

その年の舞手は辰守町内在住の男子から
選出されるしきたりになっているのだ

伊鶴は去年の舞手を務め

そして
今年の舞手に俺を
選出しようとしている

俺は自分の踊りで
手一杯なんだよ

さんっざん言ってるが
俺がやってるのは
洋モノであって
和モノとは違うの

……

うう〜〜〜〜

そこをなんとか…

ピクッ
ボソ…
……己が罪
止むことの無い痛み
過ぎ去りし過去
神の見捨てし大地に
舞い降りた黒き翼の堕天使
おい待て
黄昏の大地に
血の如き紅の陽が沈む
ベラ
ベラ
ベラ
止めろ
それ以上言うな!!
愚かしき者たちは
再び楽園を求め…
止めろォォォォォ
今ここで首を
縦に振らなければ
貴様が中学時代
秘密ノートに
書き綴っていた
『アンニュイなポエム
名作65選』を
あしたの昼休み
校内放送で朗読する!!
ギャアアアア
テメエいつノート
見やがった!!
Blue Sky
chihaya E
バアーーーン

こないだ お前んちに
遊びいった時
お前がおやつを取りに
部屋を空けたスキにな！

勝手にひとの机ん中
漁ってんじゃねえよ!!

ゲラ
ゲラゲラ

ギルティ…!!
ペイン…!!!!
こいつぁ
ヤベェ―!!

だめだよ
そんなに
笑っちゃ
…くっ…

ブフッ…

翼を失くした天使は
再び虚空へと

お願い
止めてええええええ
イヤァァァァァァ

どうだ
親友の頼みを
聞いてやる
気になったかね？

どんまい
どんまい

クソ……ッ
テメエら
人間じゃねえ…ッ

念願の千ぃちゃんの『白鷺』が見れるんだぁ〜〜〜
生きてて良かった♡
ハァ〜
……そうかよ
だって千ぃちゃんの舞台見てから心に決めてたもん
「絶ッッ対に千ぃちゃんに『白鷺』をやってもらおう！」って
去年の文化祭
あのダンス見た時の衝撃と感動は忘れられないよ

千ぃちゃんがまるで
踊りの神様とか妖精とか
浮世離れした存在に
なっちゃったみたいに
神秘的で
自分の目玉から魂が
抜き取られちゃうかと思ったよ

うっとり…
そんな千ぃちゃんが
「白鷺」を舞ったら
きっとスゴイことに
なっちゃうだろうなあー
って思ってたんだ〜
あっ
おーい！
ばあちゃーん！
カラカラ
トキばあちゃーん！
あら〜伊鶴ちゃん
今 帰りね
ほっほっほ…
うん！
ばあちゃんとこさぁ
田植え いつー？
今年もみんなで
手伝い行くけん
日付け決まったら教えて！
あぁ〜いつもありがとうねえ
またこっちから電話すっけん
わかったー！
あっそうだ！
ばあちゃん見て！
!?
ぐいっ
俺ん友達の千ぃちゃん！
今年の『白鷺』の舞手するよ！

あらま！えらいイケメンやんねご利益んあるごたあ〜
キャッ
やろー！踊りもめっちゃ巧いけん10月楽しみしとってね〜!!
おおいやめろって
ねっ千いちゃん！大変だけど稽古頑張ろうね！
……。
俺も精一杯サポートするから！
辰守公民館
━こうして俺は（かなり不本意ながら）今年の『白鷺』の舞手に就任し
伊鶴が所属する地元の神楽会のもと稽古を開始した
辰守町神楽会
白鷺の舞稽古場
宜しくお願いします
円藤千早くんです
パチ
パチ
パチ
パチ

自分で言うのもなんだが
普段踊っていることもあり
振り付けを覚えるのに大した苦労はない
初めて経験する
舞特有の動作も
基本を理解すれば
すぐ身についてしまう
上達の早さには
周囲の経験者らも
驚きを隠さなかった
ストップ
ストップ
!

こないだから全然
変わってねえ
もっぺん やり直せ
この指導者の
平塚を除いては
平塚 文雄
『白鷺の舞』指導者
……
またか……
これで何度目だよ
あの…何がダメなのか
全然わからないんですが
そこがわかっとらんき
できちょらん ちゅうんじゃ
ホイ もっぺん最初から
チキショウ……
わかり辛え言い方
しやがって

こっちはこんな所でちんたら時間潰してるヒマなんかねぇってのに
一 二 三 ハイッ
トトンッ
ピュイ――……
スイ……
待て待て待て!
さっきと いっちょん変わっとらん
オイ いっぺん休憩じゃ
うーい

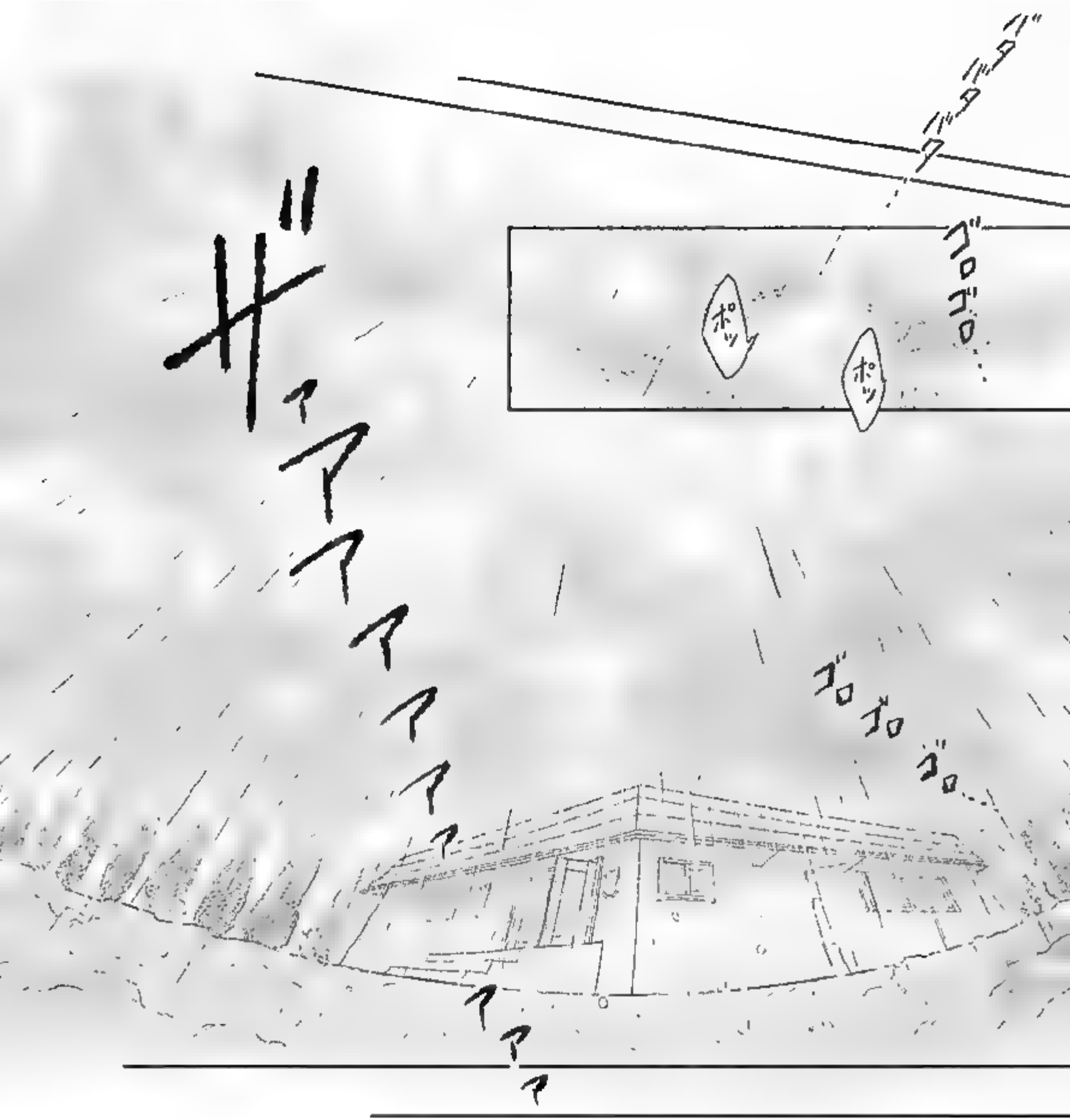
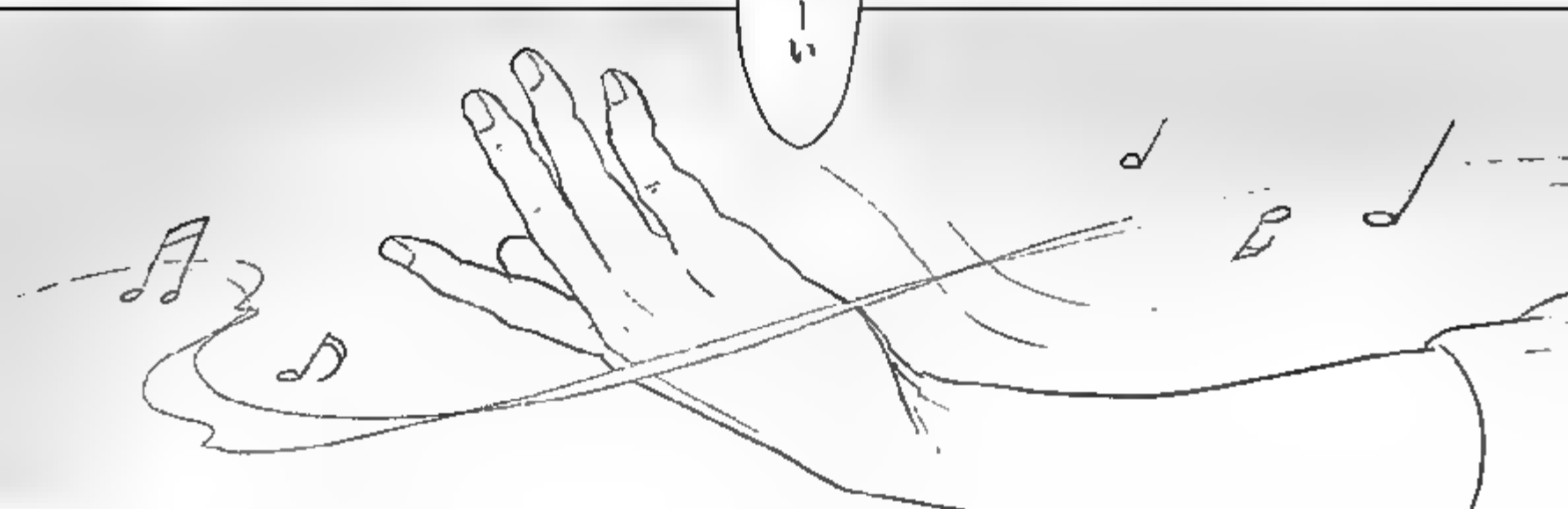
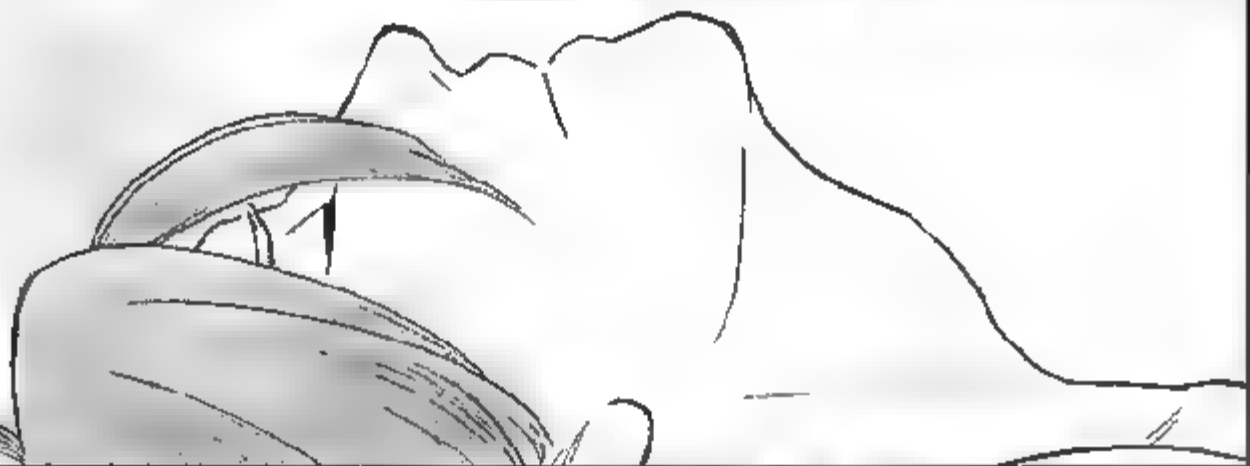
ほんだら今週末田植え機借りに行って良いスかね?
おーええぞ整備しとくわ
……ヘタに踊れてしまうんがお前のネックじゃな 円藤
身体が動き慣れとる分惰性で舞ってしまいよる
もちろん舞にはお前の持っとる技能も不可欠じゃ
じゃがなこの演目に最も必要なんは心を表現することじゃ
今のお前の舞は見た目はできちょるが肝心の中身が空っぽなんよ
もっと舞に心を乗せろ

ねね
千ぃちゃん千ぃちゃん
ほら平塚さんもさ
ちょっと難しい言い方するけど
千ぃちゃんのことを見込んで
細かく言うんだよ
っ
俺も千ぃちゃんに
この演目
チッ
何が
舞に心を乗せろだよ
乗せる心なんか
ある訳ねぇだろ
俺は お前に頼み込まれたから
仕方なく引き受けただけだ
お前と違って この舞に
特別愛着がある訳でもねぇし
自分の踊りの練習のために
一分一秒だって無駄に
できねぇのに
え ちょっと待って
待ってよ 千ぃちゃん
……そんな気持ちで
稽古してたの……？

それはちょっと……ってか かなり……
……ショックなんだ……けど
……あ？
なんだよ今更
やだってさ そんな言い方……
千ぃちゃんにとって ここで稽古するのって ひょっとして無駄な時間なの？
仕方なく引き受けた事だから 形だけ覚えて済ませちゃえば いいや とか思ってたの？
あーもう こいつまで 面倒くせえ感じに なってきやがった
わかった わかった 悪かったよ 「ムダ口叩かずに黙ってやれ」 そーいうコトだな
やや 違うってば！
千ぃちゃんが もし 自分の立場で そういう言い方されたら 嫌じゃないかって話だよ!!

あ？ なんでそこで俺の話になるんだよ
関係ねえだろ
いやいや関係ある大ありだよ！
だって千ぃちゃんプロのダンサーになりたいんでしょ⁉
どんな踊りでも引き受けた以上は一生懸命やるのがプロなんじゃないの⁉
……うるせぇな
テメエこそどういう立場からもの言ってやがる
踊りに命懸けてる訳でもねえヤツから
プロのなんたるかをどうこう偉そうに語られる筋合いはねぇ
……ひどいよ千ぃちゃん
ギュ…ッ

ガッ
今の千ぃちゃんに
良い踊りなんか
踊れっこないよ!!
テメエに俺の
何がわかる!!

人の境遇も知らねえで
好き放題言いやがって！
テメエに俺の焦る
気持ちがわかるのか!?
人生懸けてる夢が
目の前で踏み壊されていく
恐怖や苦しみも
知らねえくせに!!
さも対等な立場
みてえなツラして
語るんじゃねえ!!
オイ円藤
よさんか！

押さえろ押さえろ
落ち着けって
どげしたんじゃいきなり
……
千いちゃん……
……俺……

そんなつもりじゃ…
伊鶴……
──……っ
大丈夫か
オイ泣くな
伊鶴

ガッ
あっ
オイ！待て！
円藤!!

バタバタバタ
ゴロゴロ…
ポッ
ポッ
ザァァァァァァァァ…
ゴロゴロゴロ…
ただーいま
ガラガラ
円藤

ハァ〜 すっごい雨ねー
千ぃ〜 ただいまー
もう夕飯食べたー？
Lesson Room
今 集中してる
先食べてて
はいはーい

お父さん！
俺 世界一の
ダンサーになる！

うん
千ぃなら絶対なれるよ

お父さんとお母さんが
千ぃのファン第一号だ

白鷺の舞手

千早
ゴメンね……
本当に
本当にゴメンね……

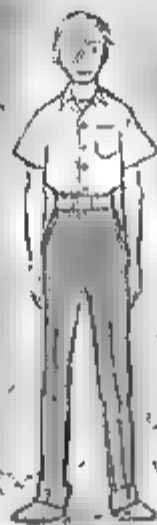
お母さん
泣かないで
お母さんの
せいじゃないよ！

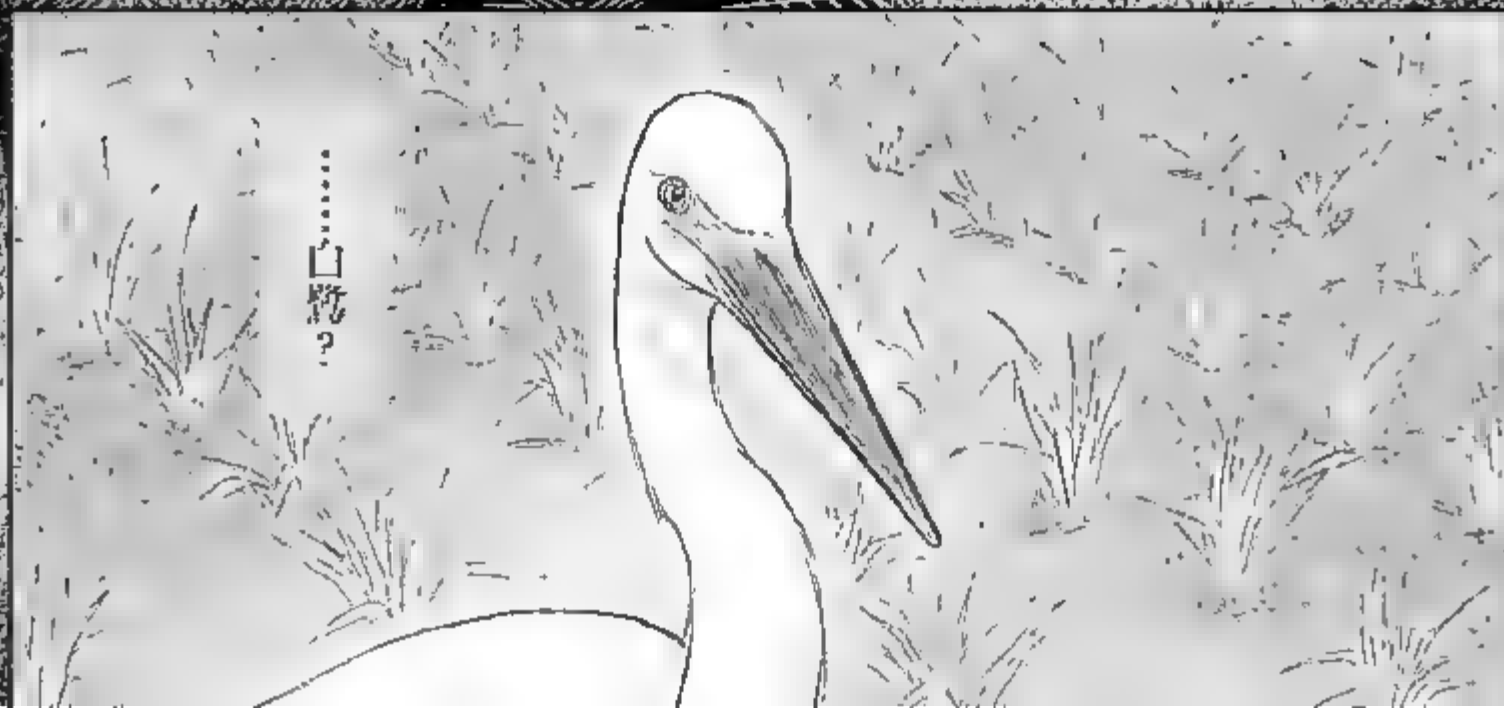
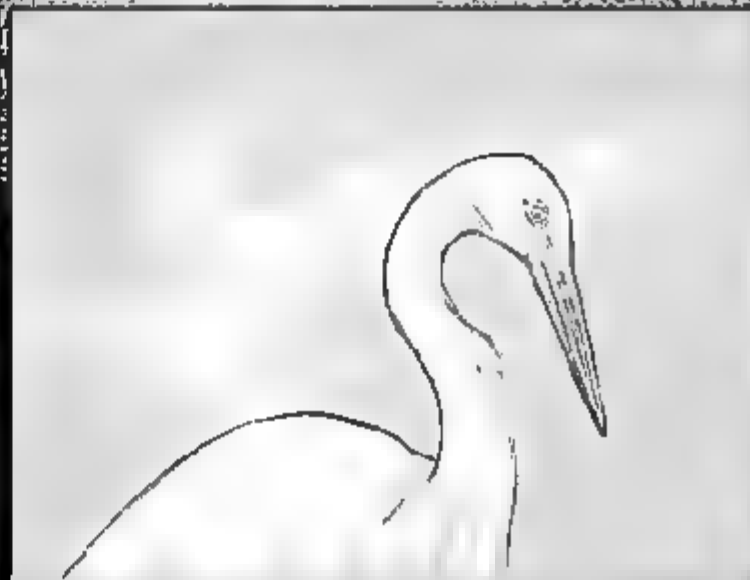
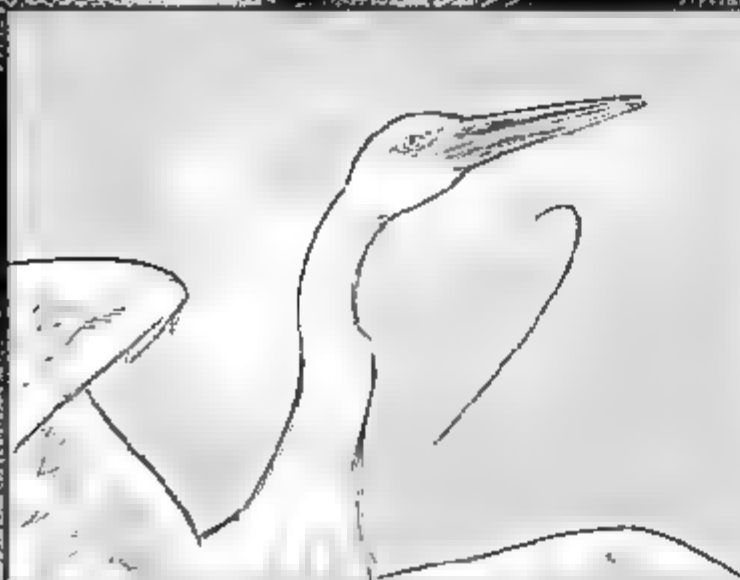
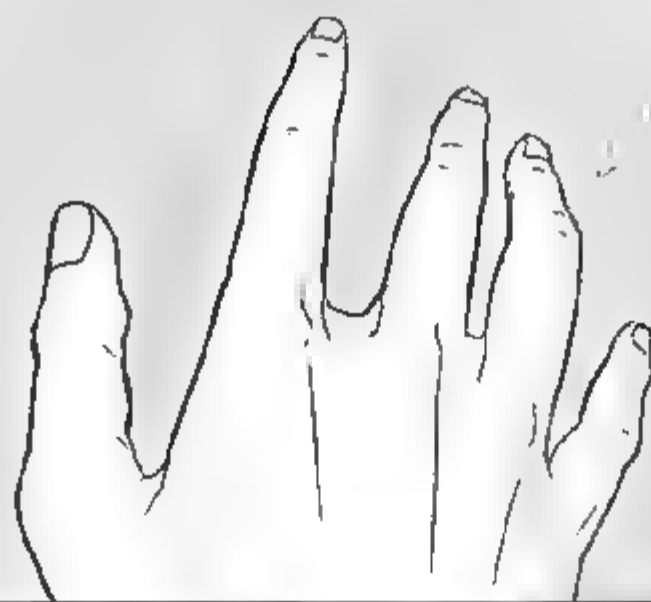
バレエスクールに
行けなくたって
先生がいなくたって
俺は一人でも
一流のダンサーに
なってみせる
そして俺たちを
バカにしたアイツらを
見返してやるんだ！

だからお母さん
自分を責めないで

……俺は一人でも大丈夫

絶対に
夢を叶えるから
俺には
モタモタしてる時間なんか
一分一秒たりともないんだ!!
ドォォォォォ

ザァァァ…
——どこからか
水の流れる
音がする…
ザバザバ
ザバザバ
パシャ
パシャ
ザァァァァァァ
田んぼの水路の
せせらぎの音…

植えて
間もない稲だ
水に空が映り込んで
きれいだな
……白鷺？

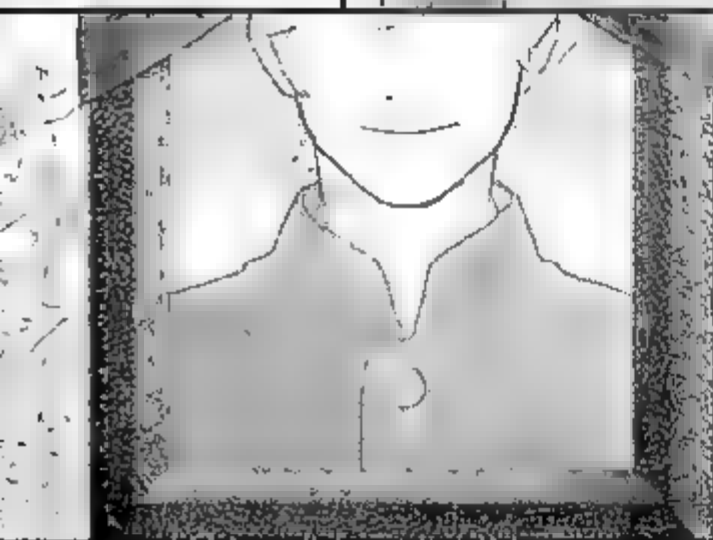
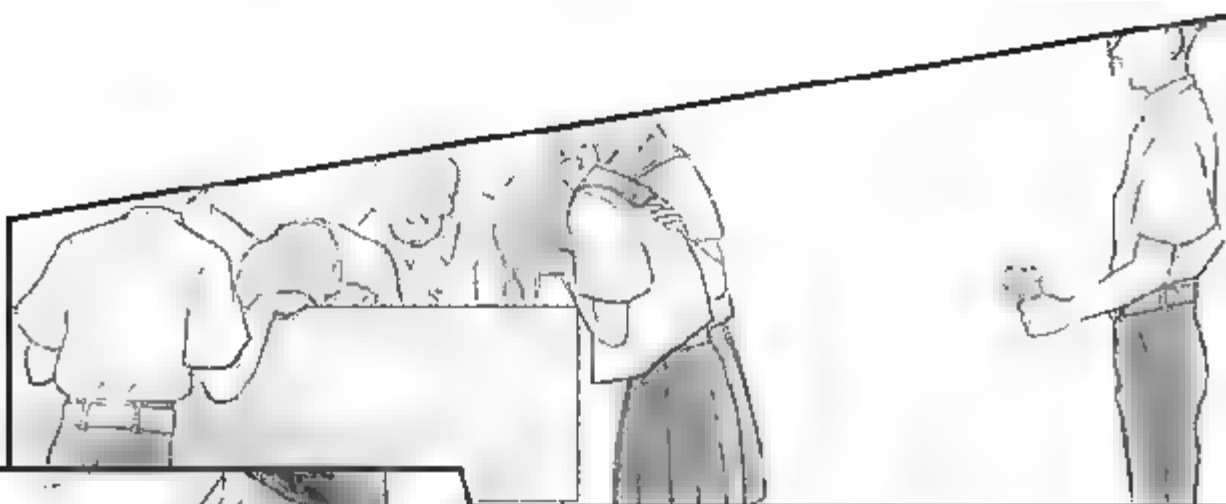
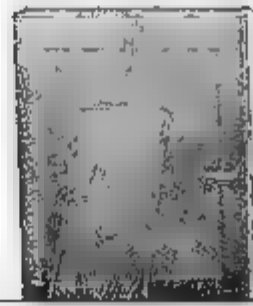
あ…
パシャッ
待……っ

待ってくれ!!
……はや……
千早……
千早!

千早ッッ!!
なっなんだ母さんかよ…ビックリし
伊鶴ちゃんが…!
ッッ
伊鶴ちゃんが……!!

舞のお稽古の帰りだったんですって

辰守川の土手道で自転車を滑らせたらしくて

故 槇村 伊鶴 儀
葬儀式場

酷い雨だったもんねぇ

まだ若いのに
可哀想に…
去年の伊鶴ちゃんの
「白鷺の舞」
良かったわいねぇ…
良い舞手さんじゃったき
川の神様に呼ばれたんかも
しれんねぇ…

伊鶴……
こんな日がくると
わかってたら
せめて一言
謝りたかった…
踊りに命懸けてる
訳でもねえくせに!!
嫌われたままに
なっちまったな…——

数日後
千早ー
お客様がみえたわよ〜
スッ
……
平塚さん……
あれ以来稽古に来とらんな
お前が元気出して舞わな
伊鶴も浮かばれんぞ

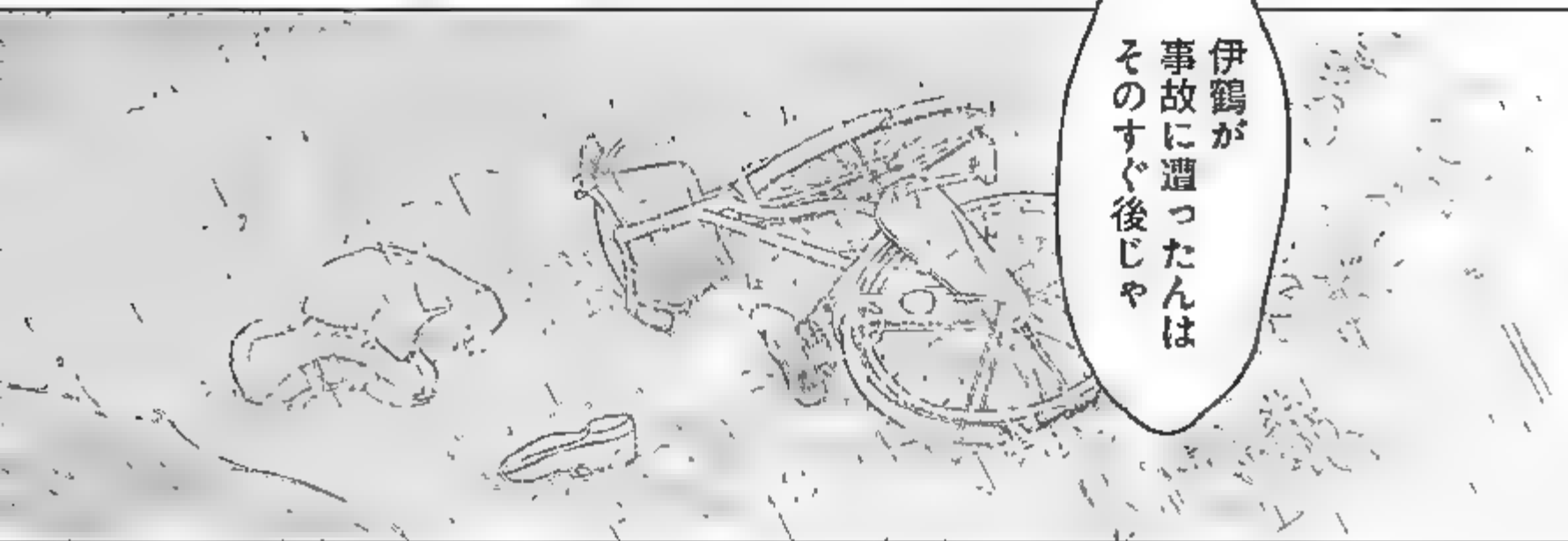
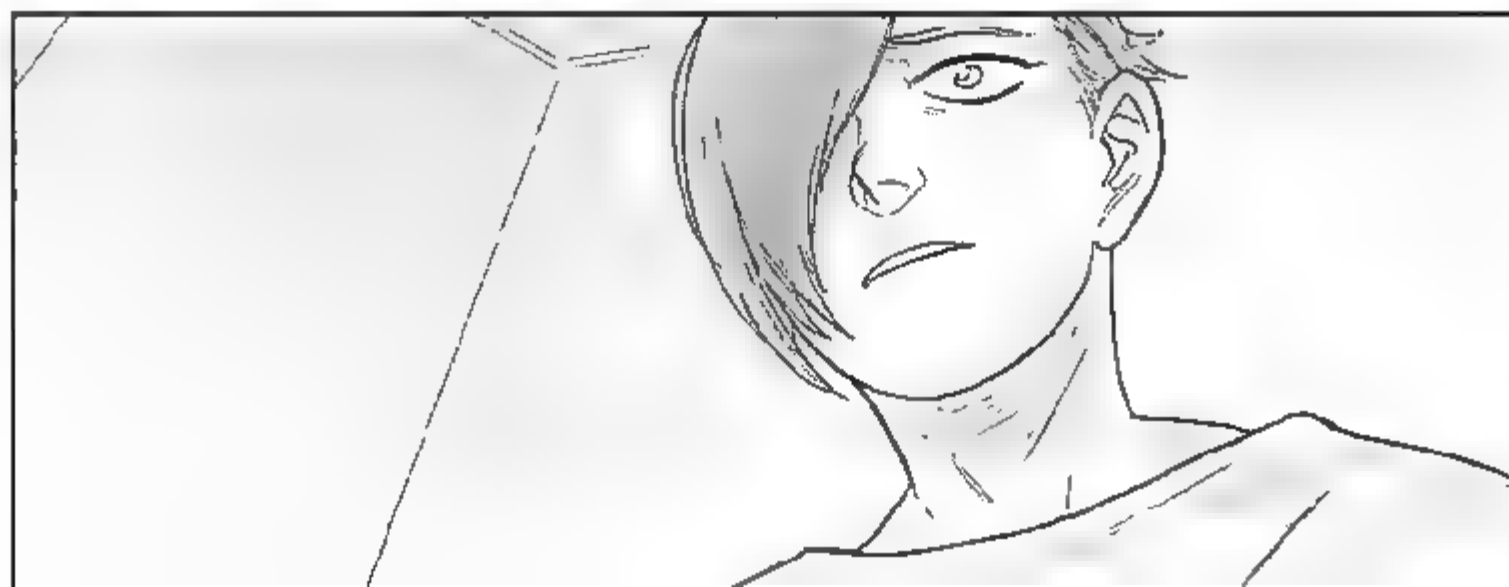
……俺なんかに
そんな資格ないです
ギュ…ッ

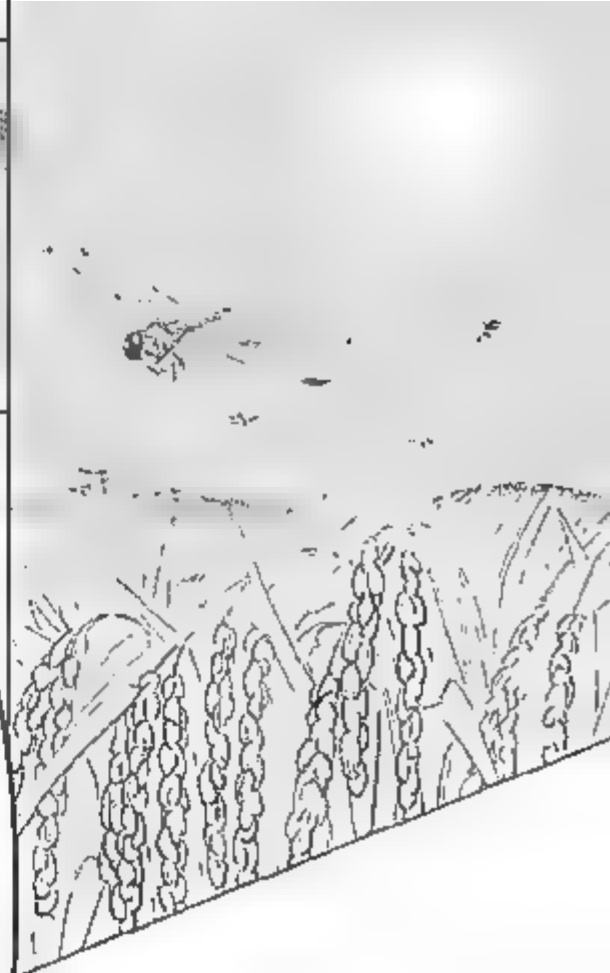
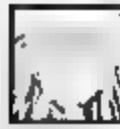
「俺なんかに
千ぃちゃんを応援する
資格はなかった」

……え？
……っち
伊鶴が言ったんじゃ
あの日お前が
稽古場を出てった後

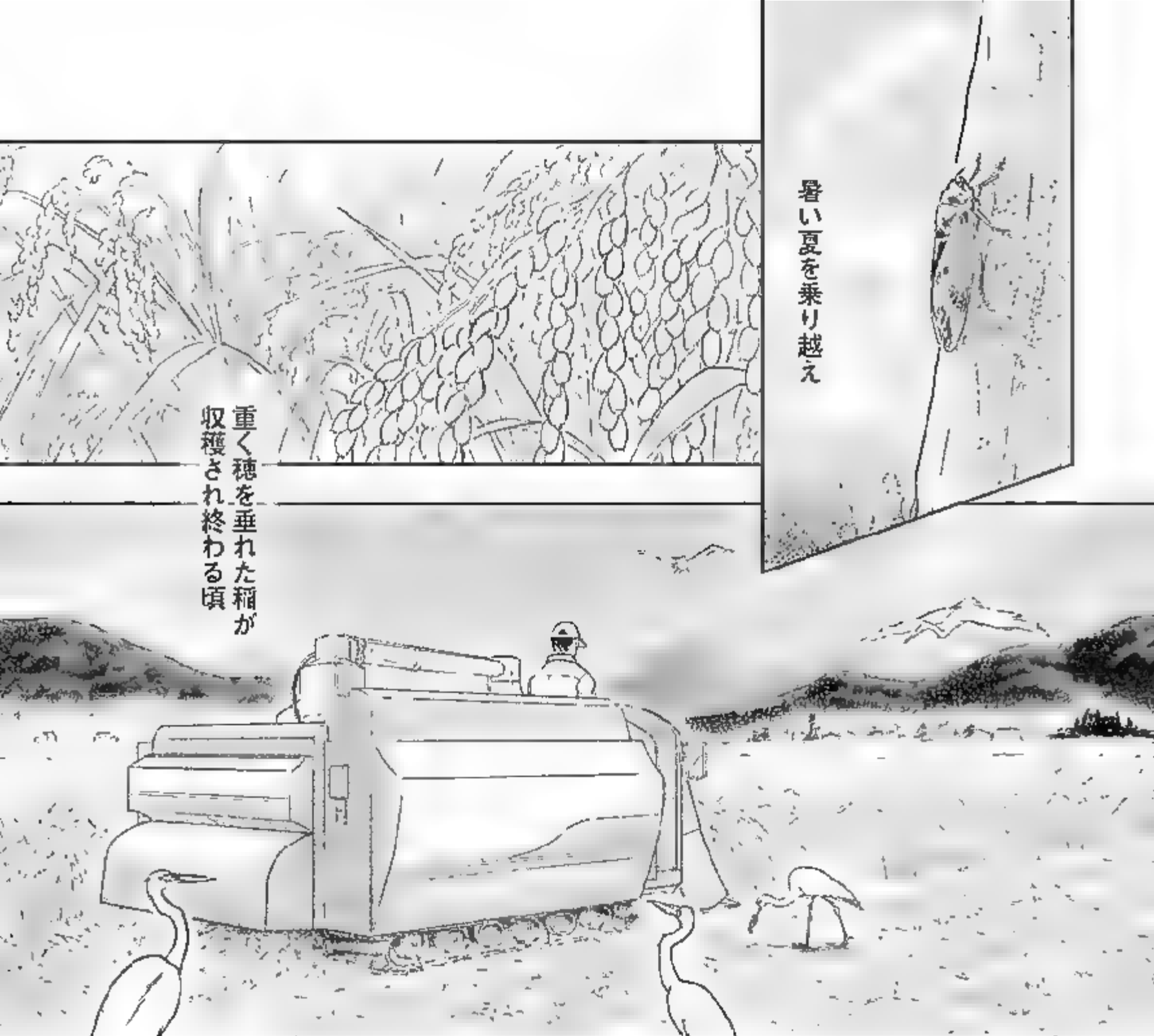
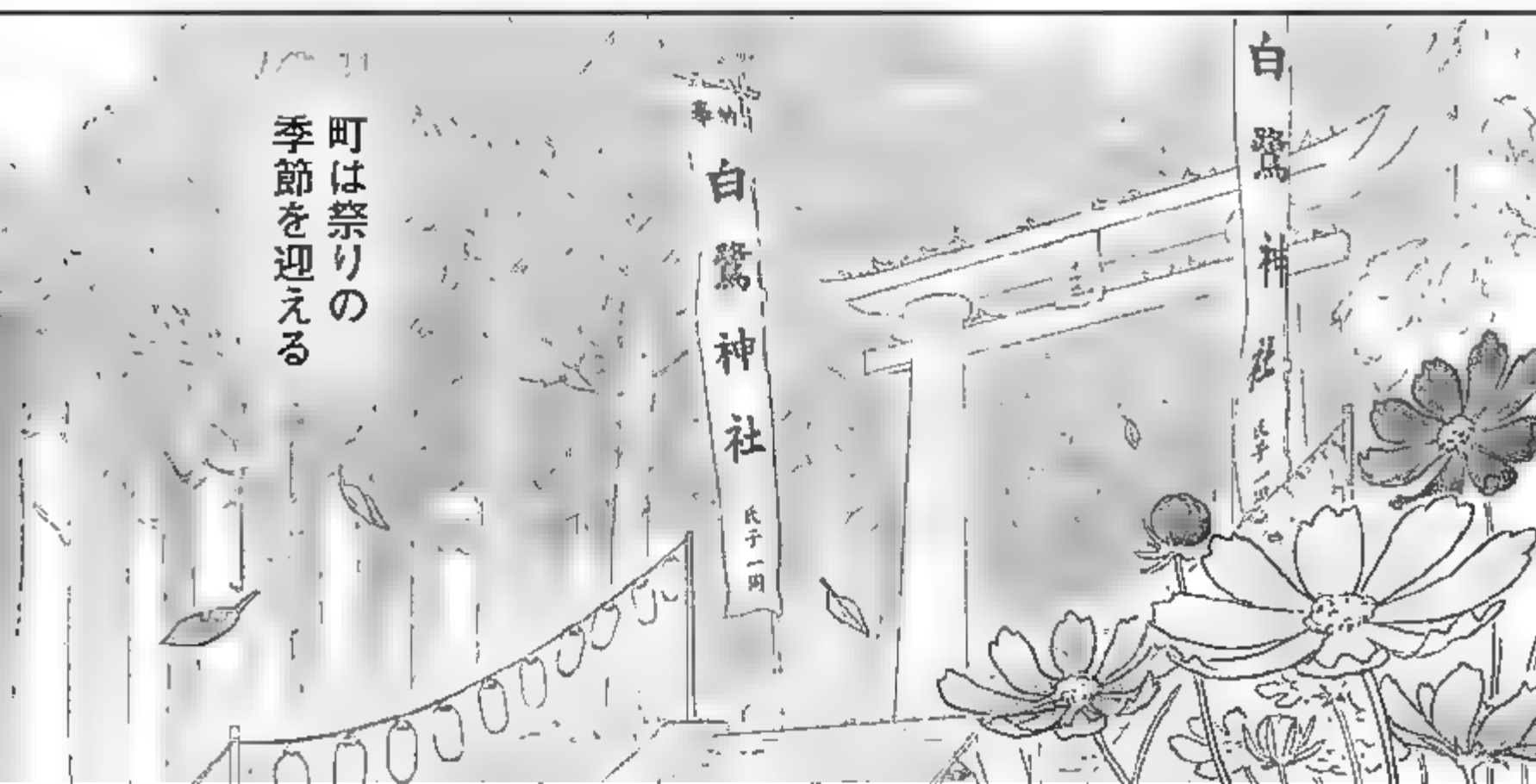
伊鶴
大丈夫か?
円藤つかまったか?
ダメじゃったこ…アイツ足速すぎ…
俺……
グズッ
俺…千ぃちゃんの踊りが本当に好きなんだ
たった一度文化祭の舞台を見たきりだけど
「この人の踊りは素晴らしい」って心底惚れ込んだんだ
千ぃちゃんはこれまで俺なんかにはとても想像のつかないような
辛いことや悔しい思いをいっぱい経験してきて
それでも諦めないで死に物狂いで踊ることにしがみついてきた人だからこそ
きっとあんなに心を打つダンスが踊れるんだろうって

そんな千ぃちゃんの踊りが
もっともっと
色んなものを吸収して
より豊かなものに
洗練されていくように
自分も何か少しでも
力になれたらなって
思ってた
自分の大好きな
『白鷺の舞』の文化が
きっと千ぃちゃんにとって
プラスになるに
違いないなんて……
でも
さっきの
千ぃちゃんの表情を見て
自分は なんて
独りよがりな考えを
押し付けてしまったん
だろうって

きっと千ぃちゃんをいっぱい追い詰めて傷付けた
――最低だよ
……俺
今日の帰り 千ぃちゃんに謝りにいく
伊鶴が事故に遭ったたんはそのすぐ後じゃ

白鷺の舞手
円藤
お前も知っちょるかもしれんが
伊鶴ん家は代々の米農家じゃ
あいつも将来は家業を継ぐつもりやった
『白鷺の舞』は
五穀豊穣や天下泰平を願う精神が源流にある

辰守の大地の恵みを受けて暮らしを営んできた者達にとっては

この舞は人生という
肉体の一部なんじゃ
伊鶴……
お前は

千早じゃからこそ
伊鶴は舞を
託したんよ
お前の生き様丸ごとで
俺の夢に向き合って
くれてたんだな
BG COMICS
Re:ゼロから始める異世界生活
第二章 屋敷の一週間編
原作：長月達平
キャラクター原案：大塚真一郎
第3巻
絶賛発売中

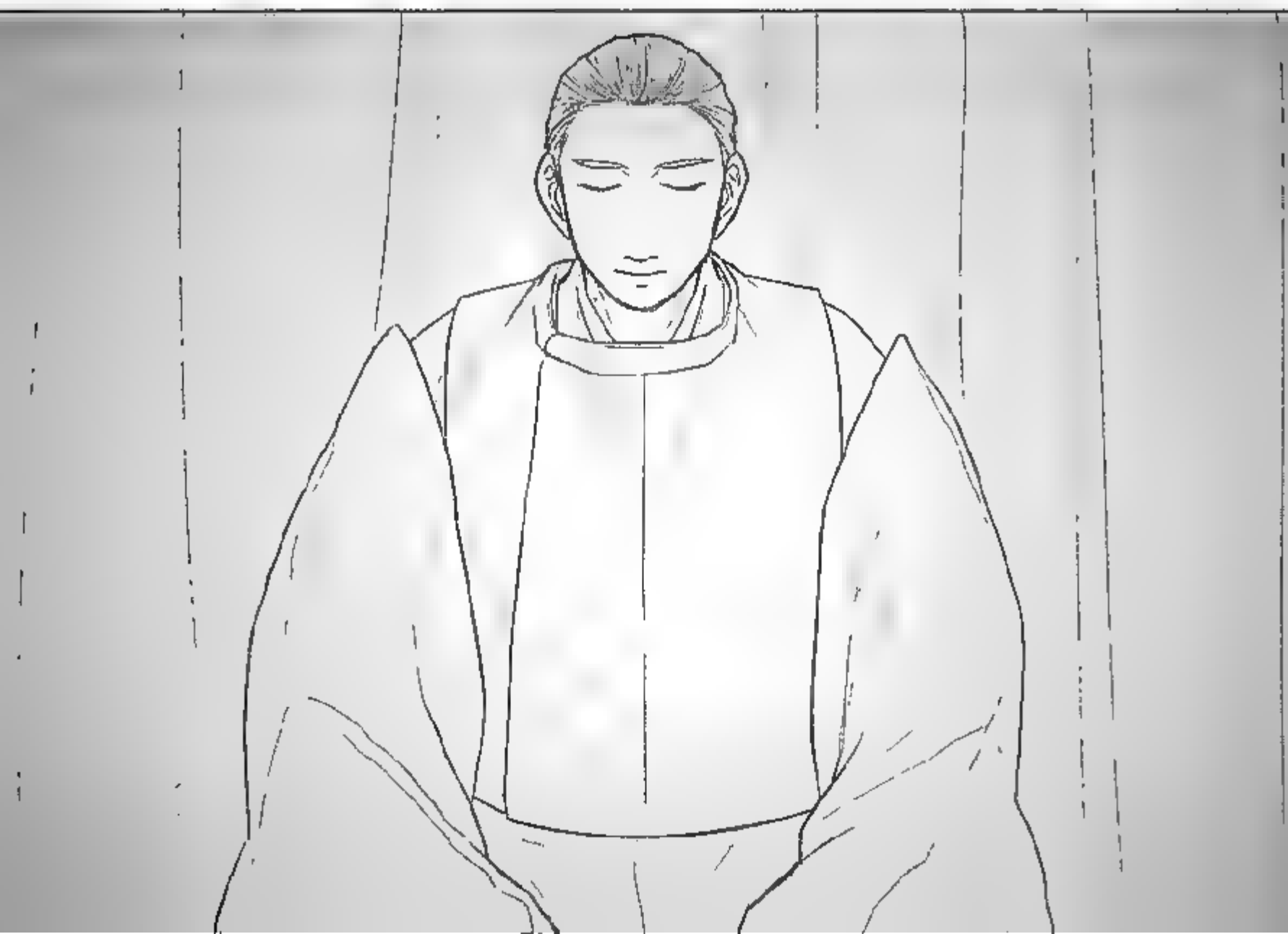
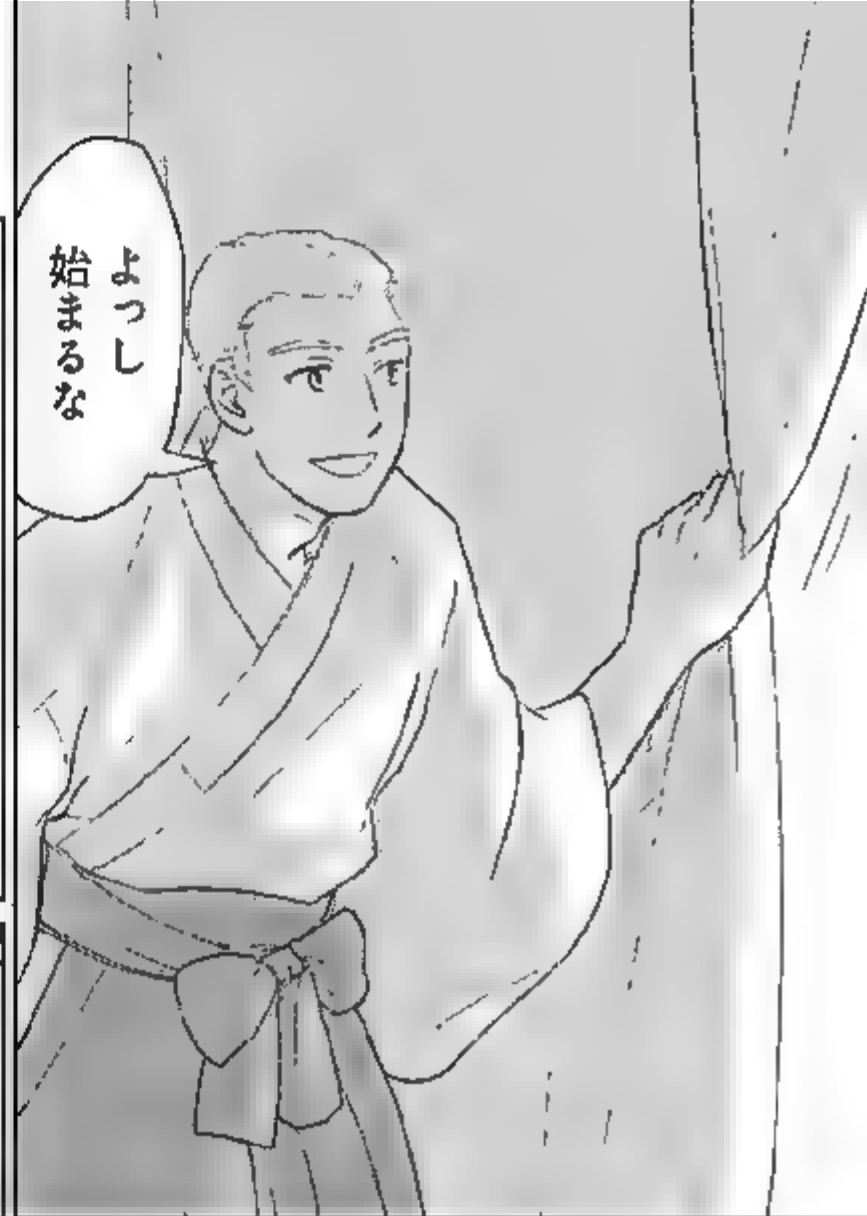
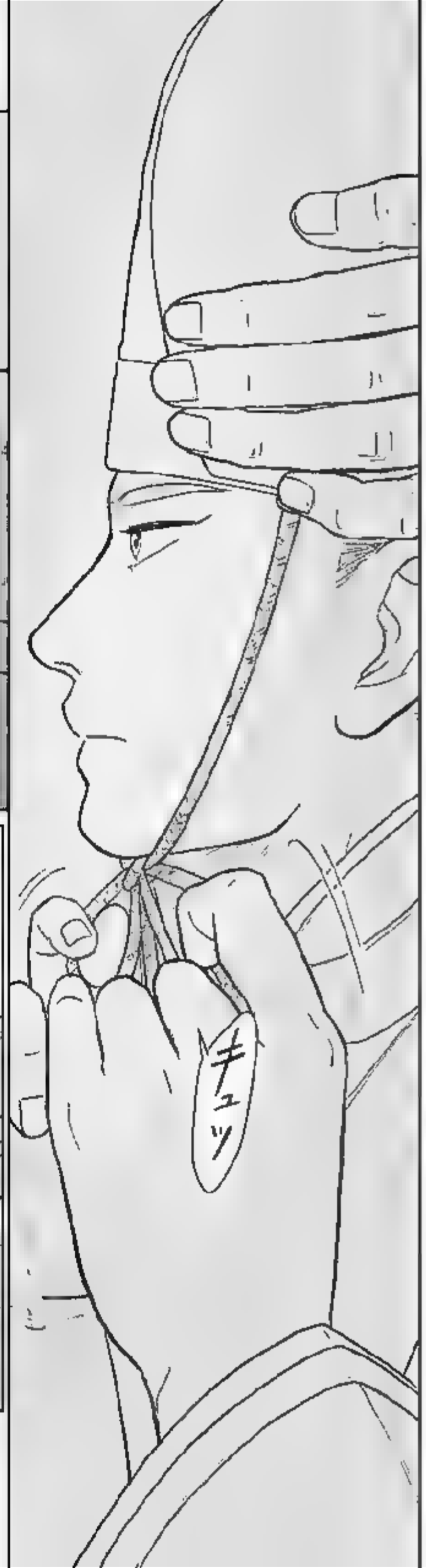
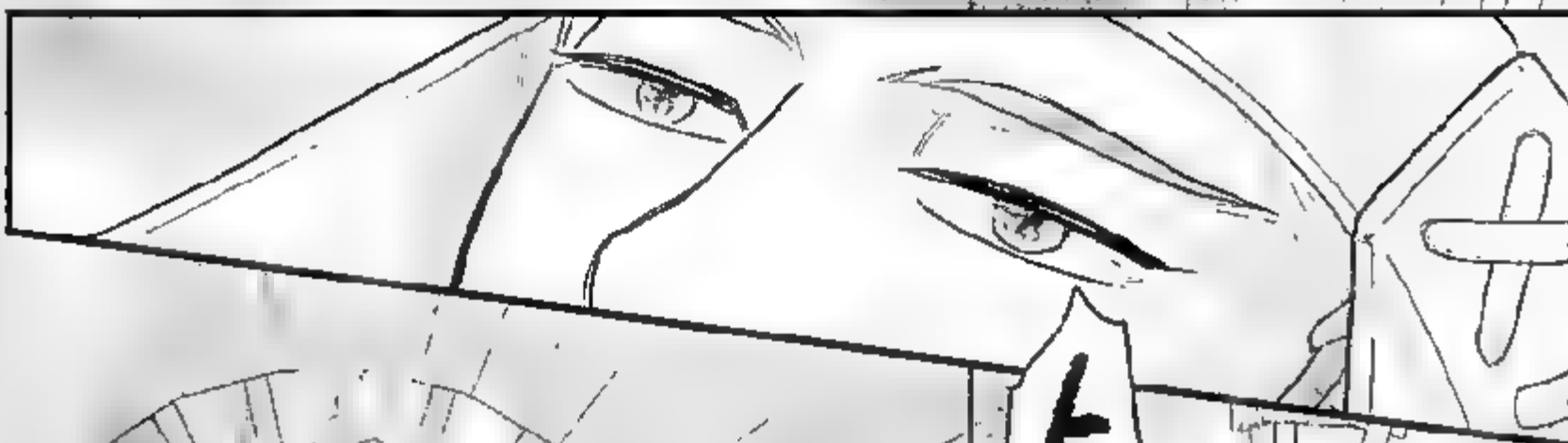
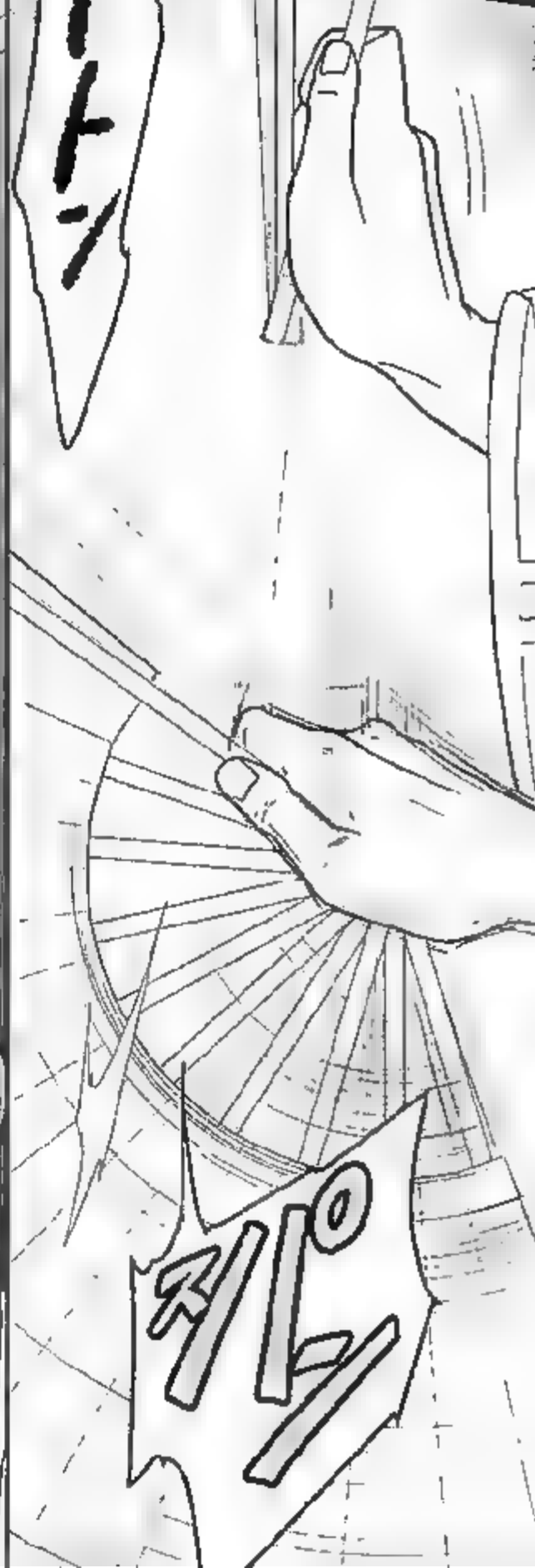
円藤
もう一度
わしらと一緒に
舞うてみんか？
季節は瞬く間に
移り変わる

暑い夏を乗り越え
重く穂を垂れた稲が
収穫され終わる頃
町は祭りの
季節を迎える
白鷺神社
氏子一同
白鷺神社

『白鷺祭』当日
間もなく19時より
境内の舞殿にて
『白鷺の舞』が
奉納されます
繰り返しご案内
致します
そば
たこやき
間もなく19時より……

よっし
始まるな
悔いのねえごと
思っきしやってこい
千早
──ッス

白鷺の舞手
チュッ
ガンバレ!!
伊鶴きっと喜ぶなぁ
うん

ピュイイーーイイ
トン
ピュイイーーイイ…
ジャラン　ジャランッ

トトン
スパン
ギャランッ
──小さい頃は
スッ

父さん
母さん
自分の舞台を
見てくれる人達を
喜ばせたくて踊ってた
……でも
父さんが
死んでから

俺は
踊りという生きる縁に
舞台という世界に
しがみついているためだけに
俺が俺自身でいられるためだけに
踊るようになっていた
伊鶴
ありがとう
お前が
思い出させて
くれたよ

誰かのために踊ること

お前のために
お前が大好きだった
辰守（この場所）がずっと
豊かであるように

神様に祈りが届くように
この舞を舞うよ

平塚さん
毎年取材させて
いただいてますが
今年はまた
ひときわ情感豊かな
素晴らしい舞でしたね！
『白鷺』の舞手は単に
踊るだけの役割やねぇ
舞手から舞手へ
魂のバトンを
繋いでいくものですけん

◎家族と友、生まれ住む土地と歴史…遍く全てを慈しみ、共に生きていく――。
おわり
黒田先生の次回作にご期待ください。